

令和7年度  
浜松市こどもの権利フォーラム  
開催報告書

浜松市こどもの権利フォーラム事務局



## 目次

- 1**  
ページ 実施概要
- 3**  
ページ 来場者について
- 4**  
ページ イベントブースの出展
- 7**  
ページ 開会あいさつ
- 8**  
ページ 基調講演
- 9**  
ページ こどもの権利に関する発表
- 20**  
ページ こどもの権利に関する  
パネルディスカッション
- 25**  
ページ 来場者アンケート
- 29**  
ページ 当日の様子



# 01 実施概要

日程

令和7年11月30日（日曜日）14時00分～16時00分

場所

可美公園総合センター 2階ホール  
（浜松市中央区増楽町920番地の2）

対象

浜松市内に在住又は、在学・通勤している方で、  
関心のある方ならどなたでも！

定員

100名（先着順）

参加費

無料

申込期間

10月15日（水曜日）から

## チラシ（おもて）

浜松市

# 浜松市 こどもの権利 フォーラム

参加費 無料 定員 100名

こどもの権利について子どもたちが考えた内容を発表します！

浜松市では、こどもの権利に関する理解・知識を深めてもらうために、「浜松市こどもの権利フォーラム」を開催します。

講師 一般社団法人 子どもの声からはじめよう 代表理事 川瀬 信一 氏

2025.11.30 日  
14:00 ~ 16:00 受付 13:30

可美公園総合センター 2階ホール  
〒432-8082 浜松市中央区増楽町920番地の2

浜松駅バスターミナル4番ゲートより「17番名簿1」に乗車、「可美公園」バス下車  
公共交通機関をご利用ください

主催 / 浜松市こども芸術教育課  
運営委託者 / 株式会社サー・ヘイリサーチセンター事務局  
協力 / 一般社団法人こどもアドボカシーセンター（あどほま）

【問い合わせ】こどもの権利フォーラム事務局  
☎054-275-6026 ☉kodomono\_kenri\_forum@source.co.jp

二桁コードまたはURLより申し込みフォームへ  
10.15（水）から  
https://www.webcase.net/form/yakusai/17\_hama\_kidomono-foram

## チラシ（うら）

「こどもの権利」ってなに???

こどもの権利

- 差別の禁止（差別的ないこと）
- こどもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）
- 生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）
- こどもの意見の尊重（子どもが意味のある参加ができること）

詳しくは、日本ユネスコ協会のホームページを見てね。

フォーラムってなににするの？

01 基調講演  
【講師】一般社団法人 子どもの声からはじめよう 代表理事 川瀬 信一 氏  
【タイトル】こどもの声を聴く「こどもアドボカシー」～こどもの「ために」からこどもと「ともに」～

02 こどもの権利に関する発表・ディスカッション  
【発表者】「浜松市こどもの権利ワークショップ」参加者  
【パネリスト】● 浜松市在住のこども・若者  
● 一般社団法人 子どもの声からはじめよう 代表理事 川瀬 信一 氏  
● リブラ総合法律事務所 弁護士 伊豆田 悦義 氏  
【コーディネーター】監獄クリストファー大学 教授 藤田 美枝子 氏

03 イベントブース  
【出展団体】  
● 一般社団法人こどもアドボカシーセンター（あどほま）  
● 一般社団法人ここみ  
● 一般社団法人みらいTALK  
● NPO法人サステナブルネット ● 任意団体のあん  
● NPO法人はままつ子ども心を支える会（すまいる）  
● 認定NPO法人はままつ子育てネットワークびび  
● NPO法人流転外国人子ども教育支援協会（TOMD2）  
● 子どもアドボカシーセンター（しずおかアドボ） ● 浜松市

主催 / 浜松市こども芸術教育課  
運営委託者 / 株式会社サー・ヘイリサーチセンター事務局  
協力 / 一般社団法人こどもアドボカシーセンター（あどほま）

【問い合わせ】こどもの権利フォーラム事務局  
☎054-275-6026 ☉kodomono\_kenri\_forum@source.co.jp

二桁コードまたはURLより申し込みフォームへ  
10.15（水）から  
https://www.webcase.net/form/yakusai/17\_hama\_kidomono-foram

## 趣旨

浜松市では、子ども・若者が健やかで幸せに成長できる「まち」を目指し、様々な取組を推進しています。

その一環として、「子どもの権利」について、子ども・若者と一緒に考え、子どもの権利を保障する社会の実現に向けた具体的な行動や考えるきっかけとするため、浜松市子どもの権利フォーラムを開催しました。

## 当日のスケジュール

(13:30から受付開始)

14:00 開式

14:05 基調講演

【講師】一般社団法人 子どもの声からはじめよう 代表理事 川瀬 信一氏  
子どもの心の声を聴く「子どもアドボカシー」  
～子どもの「ために」から子どもと「ともに」～

14:50 子どもの権利に関する発表

浜松市子どもの権利ワークショップ参加者による発表

15:20 パネルディスカッション

【パネリスト】浜松市在住の子ども・若者  
一般社団法人 子どもの声からはじめよう 代表理事 川瀬 信一氏  
リブラ総合法律事務所 弁護士 伊豆田 悦義氏  
【コーディネーター】聖隷クリストファー大学 教授 藤田 美枝子氏

15:55 閉式

## 主催

浜松市

## 運営受託者

株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

## 協力

一般社団法人子どもアドボカシーセンター浜松（あどはま）

## 02 来場者について

募集チラシの配架や浜松市ホームページ、公式SNS、さくらメールなどを通じて周知を行い、定員を上回る119人※の方に来場していただきました。

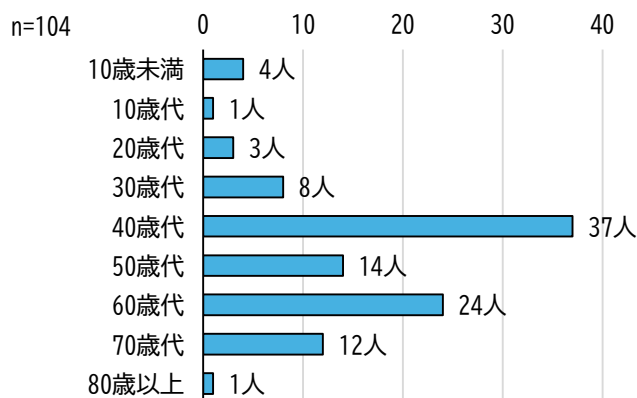
### 申込受付期間

令和7年10月15日（水曜日）～11月28日（金曜日）  
※定員を上回り受付終了

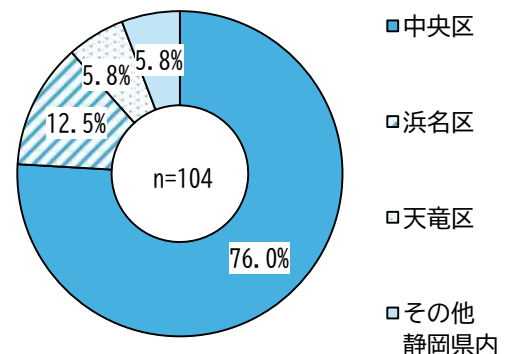
### 申込者について

申込受付期間中に104人の方からお申込みをいただきました。  
※来場者数のうち、団体イベントブース担当者はWEB申込みの対象外だったため、人数は一致しません。

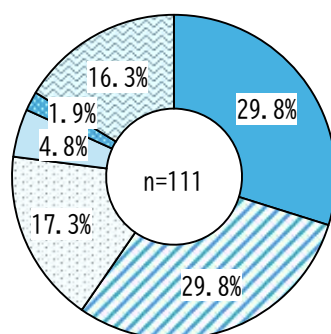
#### 申込者の年代



#### 申込者の居住地区



#### フォーラムを知った方法

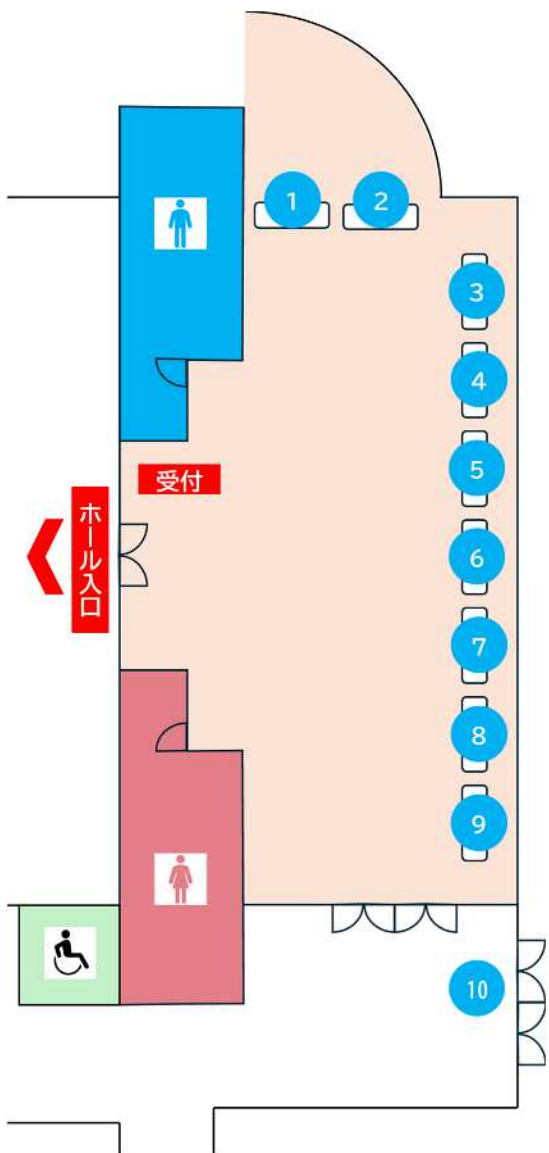


- こどもの権利ワークショップ
- チラシ
- さくら連絡網
- 浜松市ホームページ
- 浜松市公式Facebook「いいら！」
- その他

## 03 イベントブースの出展

会場ロビーには、浜松市を含め、こどもに関する活動をする10の団体がイベントブースを出展しました。イベントブースでは、活動の紹介やチラシ等の配布が行われたほか、来場者が自由に意見を書いたフセンをボードに貼ったり、こどもが塗り絵で遊んだりする姿も見られ、終了間際まで大変にぎわいました。

会場イベントブース配置図



出展団体

- ① 一般社団法人  
こどもアドボカシーセンター浜松(あどはま)
- ② 一般社団法人 ここみ
- ③ 一般社団法人 みらい TALK
- ④ NPO法人 サステナブルネット
- ⑤ 任意団体 のあん
- ⑥ NPO法人  
はままつ子どものこころを支える会(すまいる)
- ⑦ 認定NPO法人  
はままつ子育てネットワークぴっぴ
- ⑧ NPO法人  
浜松外国人子ども教育支援協会 (TOMO2)
- ⑨ 子どもアドボカシーセンターしずおか (アドしず)
- ⑩ 浜松市

イベントブースの様子

① 一般社団法人 こどもアドボカシーセンター浜松（あどはま）



② 一般社団法人 ここみ



③ 一般社団法人 みらい TALK



④ NPO法人 サステナブルネット



## イベントブースの出展

⑤ 任意団体 のあん



⑥ NPO法人 はままつ子どものこころを支える会 (すまいる)



⑦ 認定NPO法人 はままつ子育てネットワークびび



⑧ NPO法人 浜松外国人子ども教育支援協会 (TOMO2)



⑨ 子どもアドボカシーセンターしずおか (アドしず)



## 04 開会あいさつ

浜松市こども家庭部長 野田 志保

皆様こんにちは。浜松市こども家庭部長の野田と申します。本日は皆様お忙しい中、こどもの権利フォーラムにご参加いただきまして誠にありがとうございます。

浜松市としてこどもの権利フォーラムを開催するのは今回が初めてとなります。浜松市では、この4月から浜松市こども計画をスタートしています。この計画の中では「全てのこども・若者が健やかで幸せに成長できるまち浜松」を基本理念として様々なこども施策を推進しています。

しかしながら、昨今、児童虐待やヤングケアラーなど、支援が必要なこどもや家庭が増加しています。また、いじめや不登校など、こどもの健全な育成を阻害するような要因も増えているということが現状にあります。

このような中で、こどもの施策を推進するにあたりましては、私たち行政だけではなく、保護者の皆様や学校、地域の皆様など、こどもに関わるすべての大人の皆様に協力をいただかなければ推進ができません。こどもの最善の利益ということを念頭に置いて、皆様のご協力をいただければと思っています。

そのひとつとして、この「こどもの権利」を、広く周知していかなければいけないと思っています。また、今日はこどもたちの意見なども聴けるとお思いますので、こどもの権利に関して大人がどう関わっていくかということ、考えていただく有意義な一日になればと思っています。

このフォーラムを開催するにあたりまして、こどもの権利ワークショップというものを開催しています。こども・若者の皆さんが、これまでワークショップを2回行い、意見を出したり、こどもの権利ということを学習したりしてくれています。このあとの発表でのこどもの率直な意見も参考にさせていただきたいと思っています。

今日はこどもたちにも本当にたくさん参加していただきありがとうございます。こどもの権利は難しいと思うかもしれませんが、今日色々聴いたり勉強したりして、自分の身近なことだと思って考えてもらえたらと思います。

結びになりますが、本日この浜松市こどもの権利フォーラムの開催にあたりまして、多くの関係する団体の方々のご協力をいただき、誠にありがとうございました。

加えて、浜松市のこどもたちの将来がより良い未来になりますように、その第一歩がこのフォーラムとなりますように、そのような願いを込めまして、今日のフォーラムを開催したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 05 基調講演

### こどもの心の声を聴く「こどもアドボカシー」 ～こどもの「ために」から こどもと「ともに」～

一般社団法人 子どもの声からはじめよう  
代表理事 川瀬信一氏

基調講演では、講師の川瀬さんから「こどもアドボカシー」についてお話ししていただきました。様々なところでこどものこえを聴いたり、こどもの権利について、こどもや大人と一緒に考えたりする仕事をしている川瀬さんから、こどもの権利って何だろうということから、こどもの権利を保障する認識が広まった時代背景などを教えていただき、これから浜松市が、こども・若者のこえ、気持ち、考えを大切にしていける「まち」になるにはどうしたら良いかを考えていく意識を、全員で共有することができました。

また、講演の途中で「こどもの権利カルタ」をしたり、ベルギーで実際に行われている具体的な取組を教えていただいたりして、こどもの権利が身近に感じられる時間でした。

#### こ ども の 権 利 カ ル タ

ワークショップ参加者の小学生が、「こどもの権利カルタ」をしました。

「こんなことがあったら良いな」「こんなことはしてほしくないな」という、30種類の“気持ち”が描かれたカードを使って「カルタ」を行いました。このカルタは、カードを多く取った人が勝ちというルールではなく、自分にとって大切な気持ちを見つけることを目的としています。

カルタのあと、参加者は30種類の“気持ち”の中から自分にとっての「ベスト3」のカードを選び、クリップを留めました。

カードに集まったクリップを見ることで、自分にとって大切な“気持ち”や他の人にとって大切な“気持ち”を知ることができました。

## 06 こどもの権利に関する発表

「浜松市こどもの権利ワークショップ」に参加しているこども・若者が、第1回、第2回のワークショップの中で、グループごとに大切にしたい権利について意見を交換し合い、その権利が大切だと考える理由や、その権利を守っていくために必要なことなどをまとめたものをグループごとに発表しました。

### 発表グループ

#### 小学生

- 1 チーム名：うまいぼうチーム  
発表テーマ：表現の自由
- 2 チーム名：しゃべくりまんぷく9  
発表テーマ：さべつされるのを守るけんり
- 3 チーム名：何でもいい  
発表テーマ：自分の意見を無理して言わなくていい権利

#### 中学生

- 4 チーム名：わらびもち  
発表テーマ：自分の意見が他の人に聞いて考えてもらえる権利

#### 高校生・大学生・社会人

- 5 チーム名：モグモグくらぶ  
発表テーマ：意見を表す権利

1

表現の自由

チーム名

うまいぼうチーム

メンバー

コーヒーまめくん、ポケポケ、わこ、まひくん、かいし、ほの、れみ、れんと、あおいちゃん

私たちのチームが大切だと思った権利は「表現の自由」です。

表現の自由が大切だと思った理由は3つあります。

1つ目は、こどもには色々な考えやアイデアがあるので、その考えを生み出したり、他の人に伝えていく技能や能力は、これからの社会のために大切だったり必要だったりするからです。

2つ目は、人にはそれぞれの考え方や表現の仕方があるから自由でよいと思ったからです。

3つ目は、自分の意見を発信することが保障される権利（表現の自由）という後ろ盾がないと、この意見は言っても大丈夫なのかなと自分の意思表示がしにくくなってしまうからです。

表現の権利が守られるために必要なことは、インターネットにはこどもが知らなくて良い情報があるので、こどもが自由に情報を得られるこども専用のインターネットアプリをつくり、こどもたちが自分の意思を発信しやすい環境、必要な情報を得られる環境をつくることや、他の人が自分と違う意見を言っても怒らないこと、友達の意見を否定しないこと、できるだけ全員の意見を聴く機会をつくるのが重要だと思いました。



表現の自由 チーム名 うまいぼう

理由

- 子どもには色々な考えやアイデアがあるので、その考えを生み出したり、他の人に伝えていく事は、こもからの社会のためにも大切だと思ったからです。
- 人それぞれの表現のしかたがあるから、自由でよいと思いたいです。
- 自分の意見を発信することが保障される権利がないと、「この意見は、言っても大丈夫なのか」と自分の意見表示がしにくくなるからです。

そのために必要なこと

- インターネットには子どもが知らなくても良い情報があるので、子どもが自由に情報を得られる。子どもせんようのインターネットアプリを作り子ども達が自分の意思を発信しやすい環境、必要な情報を得られる環境を作る。
- おこらない。友だちの意見をひていない。
- できるだけ 全員の意見を聞く機会をつくる。

チーム名 うまいぼう

わたしにとって大切な権利 (権利に争ふために必要なこと)	その権利が 確保されていると感じるとき	その権利が 確保されていないと感じるとき	そのために必要なこと
<p>学んだことを活かす</p> <p>自由</p> <p>自由!!</p> <p>自由</p> <p>休み 休み 休む権利</p> <p>教育を受ける権利</p> <p>生活水準の確保</p>	<p>自由!!</p> <p>自由</p> <p>自分の意見を発信できる</p> <p>みんなの意見を聞く</p> <p>100%の意見</p>	<p>自由がない</p> <p>みんなの意見を聞かない</p> <p>自分の意見を発信できない</p> <p>みんなの意見を聞かない</p> <p>自分の意見を発信できない</p>	<p>みんなの意見を聞く</p> <p>自分の意見を発信できる</p> <p>みんなの意見を聞く</p> <p>自分の意見を発信できる</p>

## 2

## さべつされるのを守るけんり

チーム名

しゃべくりまんぷく9

メンバー

りんごくん、くすのきともはる、たつや、はなっぴ、みい、よっしー、はるき、こうキング、名倉想一郎

僕たちが大切だと思ったのは「差別されるのを守る権利」です。

理由は、差別されること自体がおかしいから、差別されると悲しくなったり嫌な気持ちになるから、差別されて死んでしまうこともあるから、差別が成立すると下にいる人間の存在価値がなくなってしまふからです。

そのために必要なことは、差別している子がいたら注意する、人を平等に見る、みんなに差別をすると嫌な気持ちになることを伝える、自分の意見もみんなの意見もしっかりと聴く、一人ひとりの個性を大切にすることです。





### 3 自分の意見を無理して言わなくていい権利

チーム名  
何でもいい

メンバー  
かいくん、けいし、せら、そうご、きこ、ゆうか、  
あつくん、みーちゃん

私たちのチームが大切だと思った権利は「自分の意見を無理して言わなくていい権利」です。理由は自分の意見をうまく言えない人がいて、その人が自分の意見を言って他の人に否定されないようにするためです。

自分の意見を言っても、言えなくても、その意見を大切にしてほしいからです。

そのために必要なことは、自分の意見を言うのが恥ずかしい人は周りの人に代わりに言ってもらったり、周りの人がしっかりと聴いたりすることです。

自分の意見をうまく出せない人は気軽に意見を言える場を設けたり、周りの人が優しく見守ったりすることです。





## 4 自分の意見が他の人に聞いて考えてもらえる権利

チーム名  
わらびもち

メンバー  
りお、あんな、いっちー、はると、もり、なお、りひと

私たちのチームは、「自分の意見が他の人に聞いて考えてもらえる権利」について話し合いました。理由は、こどものうちから自分の意見を共有し尊重してもらい理解してもらうことが大切だからということ、こどもの気持ちはこどもにしかわからないこと、制服など好きなものを選べると私たちにとって過ごしやすくなると思うからです。

そのために必要なことは、みんなの意見をしっかりと聴きながら自分も他人も意見を尊重しながら特別な事情がある人でも意見を言える社会にしていく努力すること、どんな人でも人種年齢問わずネット上でも現実でも意見が言える意見箱をつくること、意見を共有できる掲示板があると良いと思うことです。





## 5

## 意見を表す権利

チーム名  
モグモグくらぶ

メンバー  
さや、かなみん、ゆうひ、りか

「意見を表す権利」が大事だと思った背景は3つあります。

まず、いま私たちが生きる社会は生き方や働き方が多様化し、一人ひとりの個性を尊重していくことが重要になってきています。しかし、学校や自治体が十分に対応できず、こどもが居心地の悪さや抑圧を感じ、こども・若者のWell-beingや主体性の実現を妨げていると実感しています。子どもの権利条約にある「こどもの最善の利益」という原則に照らせば、変わるべきは学校の環境や制度です。そして主体は当事者であるこどもや若者自身だと考えています。また、こども・若者に関係する政策について、当事者の意思決定が保障されるべきです。これからは安心して過ごせる居心地の良い学校づくりと個性あふれる柔軟なまちづくりをすることが大切です。

2つ目は、進路選択が親の言いなりになってしまうということです。自分が望む進路や興味のある習い事があっても、結局は大人や親に決められてしまい、自分のやりたいことをやれないことが多いと思います。やりたいと思っていることをどう実現できるかを大人と一緒に考えてサポートしたり、お金やスキルなど現実的な問題について考えたりする機会を設けることが必要です。

3つ目は、居場所や学ぶ場所を自分で決めたい、学校に行く・行かないを自分で決めたいということです。居場所や学ぶ場所の選択肢が少なくなる中で、自分で過ごす場所を決められないことがあり、学校に行くのが少し辛いときに、先生や保護者に登校を強制されるのも苦しいと思います。

こども・若者と大人が対等で尊重し合える関係性にするために、大人が干渉しすぎず、自分たちで居場所を決められると良いと思いました。





## 07 こどもの権利に関するパネルディスカッション

### 登壇者

#### パネリスト

こども代表 中学1年生 あんな

こども代表 中学1年生 りお

こども代表 高校3年生 かなみん

一般社団法人 子どもの声からはじめよう代表理事 川瀬 信一 氏

リブラ綜合法律事務所 弁護士 伊豆田 悦義 氏

#### コーディネーター

聖隷クリストファー大学 教授 藤田 美枝子 氏

パネルディスカッションでは、「こどもの権利」をテーマに、こどもの代表として3人のワークショップ参加者と「こどもの権利」に関する活動をしている3人の大人が、ディスカッションを行いました。

当日の内容を簡単にご紹介します。



### 発表内容について

<藤田さん>

さきほどの発表について、付け足したいことや、もっと強調したいこと、感想など何かありますか。

<かなみん>

私は「意見を表す権利」の発表のチームだったのですが、ルールや校則づくりについて、ふらっと話せるようなところで、学校

だけではなく地域の様々な場面で決められるようにしたほうが良いのではないかと考えています。

<りお>

中学生チームの発表であった言葉ですが、特別な事情があるこどもが意見を言えて尊重してもらえるということが、意外と守られていないと思ったので、もう少し取り組んで変化してほしいなと思いました。

<あんな>

中学生チームの発表で、どんな人でも使える意見箱をつくるという意見で、意見箱は小学校などにもつくっておいたほうが、一人ひとりの意見が尊重されると思うので、良いと思います。

<藤田さん>

ありがとうございました。それでは今のこどもたちの意見や先ほどの発表を聴いて、感想や意見を、川瀬さんと伊豆田さんからいただいてもよろしいでしょうか。

<伊豆田さん>

今回意見箱をつくるか、フセンにたくさん意見を出して、今日の発表に臨んでいるのを見て、本当に皆さん色々な意見をお持ちなのだなとよくわかりました。

意見を聴いて、全ての一人ひとりのこども・若者たちが“みんな主演”であり、ありのままのあなたが大切だということを、どうやったら大人たちが社会や地域でつくっていただけるのかを、皆さんのこえを直接聴きながら考えることが大事だということを感じました。

今後は、地域や国だけでなく、学校など本当に身近なところに意見箱をつくり、誰でも自分の意見を遠慮なく言える、全てのこどもが主演になれる社会を目指していきたいと思いました。

<川瀬さん>

まず、小学生の3つのチームの発表を聴いて思ったのは、こどものこえというのは、これからの未来をどうつくっていくかを考えるときに大切だということです。

また、『しゃべくりまんがく9』チームの発表にあったように、差別は良くない、人が亡くなってしまうこともあるという状況自体が難しく、一人ひとりが平等に守られ、尊重されることが大事だなと思いました。

『何でもいい』チームの意見で、「自分の意見を無理して言わなくて良い」というのも

ありましたが、意見を言う権利はプレッシャーに感じる場合がありますよね。実は「参加する」ということは、考え中だから「保留」にしたり、信頼できる人に「信託」するなど、参加しないことや誰かに託すことも含めた参画が大事だと思いました。

中学生チームが特に繰り返しおっしゃっていたのが「特別な事情のあるこどものこえ」も大切なのだということです。私たちは目の前のこどものこえを聴くことに意識が向きがちですが、同時に「誰のこえを聴くことができているのか」という部分も同じくらい大切にしていく必要があります。

高校生チームから、参画が抑制されることを本当に嫌に感じていることが伝わりました。学校の校則など様々なルールをこどもたちが参画しながら一緒に考えていくことが大事だと改めて思いました。

## こどもの権利ワークショップについて

### ワークショップに参加した理由

<藤田さん>

こどもの権利ワークショップにどうして参加しようと思ったのか、きっかけを教えてくださいませんか。

<りお>

元々、権利というのが何なのか想像もつかなかったもので、興味をもってやってみたいと思いました。

<あんな>

こどもの言葉を聴こうという取組はあるけれど、それを伝えにくい人の意見を聴こうというのは少なく感じたので、どうしたら聴いてもらえるようになるか考えようと思って参加しました。

<かなみん>

今高校3年生なのですが、高校2年生のときからこども食堂などのボランティアの

経験があって、自分より年下の子どもたちに色々なことを教わることが多かったので、こういうこどもの権利についても学んでみたいと考えていて、将来は福祉職に就きたいと思っているので、この機会にこどもの権利について少しでも学びたいと思い参加しました。

<藤田さん>

こども食堂でのボランティアはどのようなことをやっていますか。

<かなみん>

来てくださったご家族や子どもたちに食事を配膳したり、後片付けをしたりする仕事を行っています。

### ワークショップに参加した感想

<藤田さん>

ワークショップに出てどのような感想があるか、どのようなところだったか、良かったところやがっかりしたことでも良いのでワークショップについて教えてください。

<あんな>

コミュニケーションがとても取りやすく、自分の意見をどんどん言うことができ、とても良い場所だと思ったし、権利のこともあちらの紙のようにたくさん出すことができ、他の人の意見もわかりとても楽しかったです。

<りお>

最初は、「世の中、大人がこどもの意見を全然聴いてくれない」と思って参加したけれど、大人の人たちが優しく寄り添って聴いてくれたり、周りの友達も耳を傾けてたりしてくれて、温かく感じました。

<かなみん>

最初はグループ活動になじめるか心配で

したが、こどもの権利について考える意欲的な人たちが集まってきているので、全員が他の人の意見に耳を傾けて意見を尊重し合っているのがとても良いチームだなと思いました。色々な立場の人たちの意見を聴くことができたので自分の中でも視野が広がったと思いました。

### 川瀬さん、伊豆田さんへの質問

<藤田さん>

伊豆田さん、川瀬さんに何か聴きたいこと、質問はありますか。

### こどもの権利に関する仕事に就いた理由

<あんな>

なぜ、川瀬さんと伊豆田さんは今の仕事に就こうと思ったのですか。

<川瀬さん>

私はこどもの頃に色々事情があって、親元を離れて児童養護施設や里親さんのところでお世話になった経験があります。

里親さんのところに行きたいと自分が言って周りの大人がそれを実現するために動いてくれました。里親さんのところで、うまくいかないこともありましたが、そのうまくいかなかったことを「なぜうまくいかなかったのか」を自分で考えました。

もし、自分の意見を聴かれずに大人が「あの施設があるよ」「この人が育ててくれるよ」と決めていたら、うまくいかなかったことを、多分それを決めた大人のせいにしていたと思います。

そういう経験が、自分の人生のハンドルを動かしたひとつの大きな原因になっています。

でも、周りを見渡すと、自分と近い不快感を経験しているこども・若者たちが、自分のこえを上げることが難しかったり、しっかり受け止めてもらえていなかったりする状況

があります。

そのようなことが、こどものこえを聴くとか、一緒にこえを上げるという活動をしている原点になっていると思います。

<伊豆田さん>

なぜ弁護士になったのか、なぜこどもの権利の仕事をしたくさんやっているのかということの説明します。

大学生のとき、色々な人の法律相談を聴くというクラブがあり、そこで、まだ身分も何もない私の話を真剣に聴いて、「ありがとう」と言ってくれる人、そして法律問題がこんなに世の中にあるということに気づき、弁護士になろうと決意しました。

次に、こどもの権利の仕事に携わっている理由ですが、弁護士になる前の修習生時代に入った事務所が、こどもの権利を一生懸命やっていたことが、大きなきっかけのひとつです。

もうひとつの大きなきっかけは、少年事件です。警察などに捕まってしまったこどもに会い、その子が立ち直るお手伝いをするという仕事があります。そこで、心を開いて話をしているとこどもはすごく変わるということ、変わる力があるということを感じて良い仕事だなと思い、それ以来こどもに関わる仕事をたくさんしています。

最近では、学校や児童相談所といった大人のほうが疲れてきているので、そういった大人のお手伝いもしていて、「こどもの権利」というのは、こどもと大人が対立するものではなく、みんなで話し合いをして真剣に向き合い、一番良いところを探すということをしています。

### 意見を伝えにくいこどものこえの聴き方

<りお>

川瀬さんに質問ですが、障がいや事情があって自分の意見をうまく言えない子の意見を聴いたことはありますか。

<川瀬さん>

私たちは普段、いくつかの場所でこどものこえを聴いていますが、そのひとつに児童相談所があります。様々な事情で親の元から離れて生活する場所があり、そこには障がいがあって気持ちを伝えることが難しいこどもたちがいます。

例えば、手話でやり取りをしたり、障がいとは違いますが海外にルーツをもつこどもたちは、私たちが日本語でのコミュニケーションを当たり前に行っていると、こえを上げることにハードルを感じたりしますよね。私たちは、そうした人たちにコミュニケーションをとることができるようにしています。

次にチャレンジしようと思っているのは、医療型障害児入所施設です。医療的なケアが必要で、言葉を発することが難しい方もいらっしゃると思います。そういう人たちが、例えば表情、しぐさ、体の動きで、すごく様々なことを伝えてくださっているのです。

しかし、それが日常の中で流れてしまったり、支援する側が強くコミュニケーションを取ってしまいがちなところを、こどもがどのようなときに快適か、不快かといったことを含めて、一緒に過ごしながら対話し、こどもがどう感じているかを大切にステップアップの準備をしたりしています。

今日、「意見表明」という言葉がたくさん出てきますが、子どもの権利条約の元々の条文では「view」という言葉が使われていません。「意見」というと、「こう考えます」と言葉にすることに限定されがちです。しかし、「view」というのは風景とか景色とか流れといった意味合いがあり、当然、障がいがあるこどもや乳幼児が感じ捉えていることも含め、そこをきちんと大切にしていこうと考えています。

<藤田さん>

意見だけでなく感情、怒ったり笑ったり、そういう気持ちを全部相手に伝えて、それを聴いてもらうことはすごく大事ですね。

## 「こどもの権利」が身近になりづらい原因

<かなみん>

1994年に子どもの権利条約が日本で批准されたのに、どうしてこんなに長い月日経っても、こどもの権利が私たちにとって身近になりづらいのでしょうか。

<伊豆田さん>

すごく良い、するどい質問ですね。

私たち弁護士は、こどもの権利について一生懸命こえを上げてきました。

こどもの権利というのは、「こどもを主役にして、こどもに一番良いことを探す」ということですが、大人側にとってみると、こどもの話を聴いたり、しっかりと向き合ったりすることは大変なことなのです。

そして、大変だからこそ、こどものこえをあまり聴かず、「大人が良いと思うことがこどもに一番良い」という考え方が、どうしても強かったのでしょうか。

その結果何が起こったかという、いじめはなくなる、虐待は起こる、こどもの貧困の問題が起き、こどもが置き去りにされてきてしまって、大きな社会問題になりました。そして、こども基本法というものがようやくできたということです。

私も色々なところでこどもの権利の話をしてきましたが、「こどもの権利というのは発展途上国のこどものことだからいらないでしょう」という人が昔はたくさんいました。

ですが、そうではないですよ。今日、皆さんにも勉強していただきましたが、こどもの権利は日本にとっては全然足りていないと思われませんでしたか。

そこがようやく分かってきたかなというところでしょうか。

<川瀬さん>

すごく大切な質問をしてくれたなと思います。そもそも日本は、子どもの権利条約を1994年に批准したものの158番目で、すごく遅いですよね。こどもの権利というのが、どこか遠くの国のすごく困っている子たちの権利を守るためのものではないかという認識があったと思います。

日本の法律の中で既にこどものことを大事にしているだろうということが認識としてあり、さらに、日本の法律や制度の変わりにくさがあることが、広まってこなかったことの要因のひとつだと思います。

また、子どもの権利条約の第42条に条約の広報、周知義務があります。条約に批准して私たちも守りますと約束したら、国はそれを広く広報しなければいけないという義務ですが、これをあまり積極的にやってきませんでした。

例えば学校の先生は、権利のことを知らなくても学校の先生でいられる、子どもの権利条約があるということくらいは知っていてもそれがどのようなことなのだろう、自分の生活にどう関係していくのだろうということはあまり積極的に扱われてきませんでした。

その背景にはこどもに対して未熟な存在だとか大人の言うことを聴くべき存在だというように長くみなされてきたということがあると思います。

ただし、最近は色々な自治体でこども条例ができたり、その前にはこども基本法といった法律ができたりして、このように仕組みができていけば、もう「こどもの権利なんてどうでもいいよ」と言いにくい社会になってきていると思います。

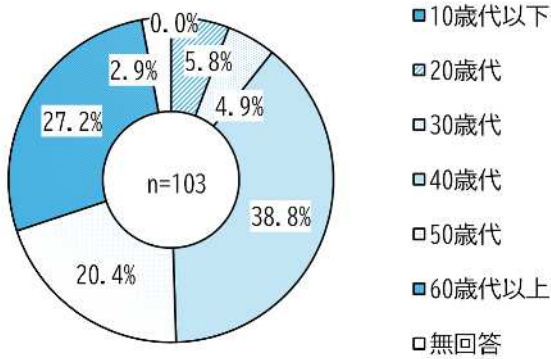
あとは、どうやって日々の生活につなげていけるか、それを受け止める大人側の責任、果たすべき役割があると思っています。

## 08 来場者アンケート

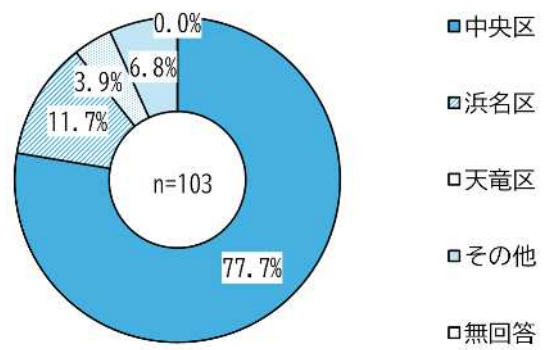
来場者の皆様からいただいたアンケートの結果をご紹介します。

回答率 86.6%(103/119人)

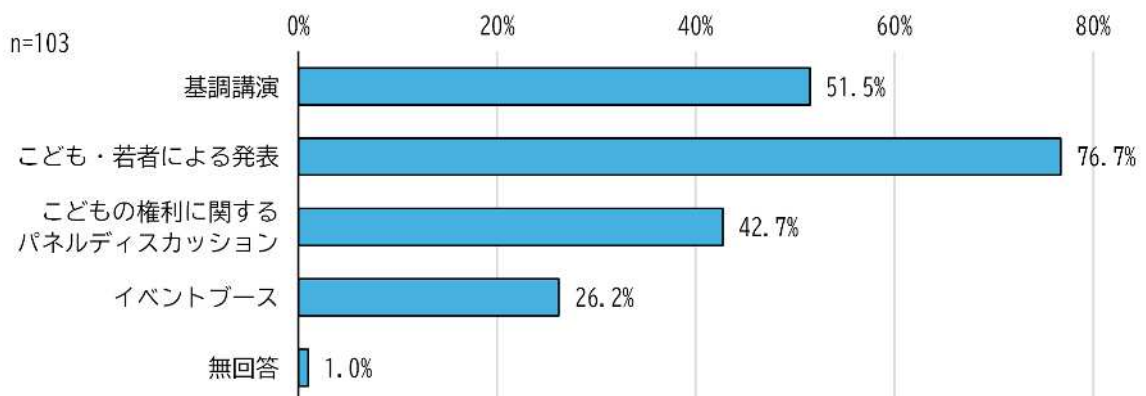
Q1. あなたの年齢を教えてください。  
(1つを選択)



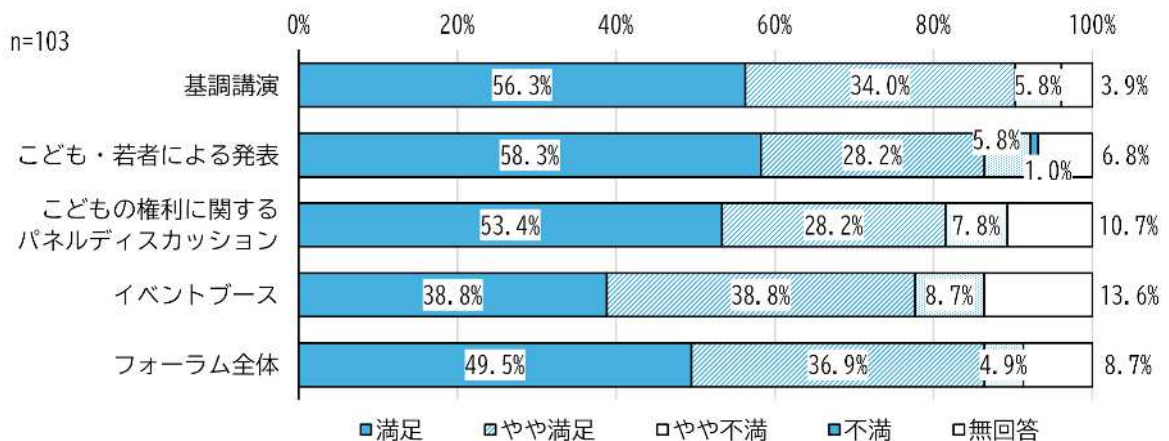
Q2. あなたの住んでいる場所を教えてください。  
(1つを選択)



Q3. 今回のフォーラムに参加した目的として当てはまるものをすべて教えてください。  
(当てはまるものすべてに○)



Q4. 今回のフォーラムについての評価をご記入ください。(○はそれぞれひとつ)



お寄せいただいた意見の一部をご紹介します。

ご協力いただいた皆様、温かいメッセージや貴重なご指摘をありがとうございました。

こどものことはこどもに聴くのが、一番だと改めて感じました。こどもの発表はもう少しゆっくりと聴きたかったと思いました。本日はありがとうございました。

こどもたちの中から出てくる大切なこえを耳で聴き、今後はこどもたちのこえを感じていきたいと思った。

外国ルーツの住民・こどもたちに関係するテーマを取り組んでいただけたらうれしいです。

とても貴重な時間でした。こどもたちは想像以上に考えていること・思っていることがしっかりしていました。真正面から向き合うことが大切ですね。

パネルディスカッションが特に心に響きました。こども1人1人、大人もみんながんばって生きていて、尊重されなければいけないと思いました。

こどもたちが主体となって運営されているところがいいと思いました。大人がイメージする権利とは違うこどもの視点からの権利に触れる良い機会となりました。改めて大人もこどもも「権利」について学ぶ場が必要だと感じました。ありがとうございました。

こどもたちに幸せな未来が来るために、大人達は意見を最後まで聴いてあげてほしいと思います。

こどもたちは、大人に自分たちの意見や考えをもっと聴いてほしいと思っていると感じられた。こどもの身近な地域でこどものこえを聴く仕組みが整備されると良いと思いました。

こどもだけではなく、権利とは奥深いですね。少しでもこどもたちの未来が明るく過ごせるようになってほしいですね。こどもたちの司会進行はとてもよかったです。

大人もこどもも自分の権利について考え、幸せについてもっともっと深く考えたり、感じたりする機会が増えていけばよいと思う。今日のような機会を各小・中学校・高校でも設けていてもらいたいです。

こどもたち発案の企画をもっといろいろ見てみたいです。

考えさせられる2時間でした。帰宅後にこどもと話し合ってみたいと思います。

こどものためにも思い、行っていたことが逆にこどものためになっていたのかと思った。これからは先ずこどもの意見を聴きたい。

子どもたち一人一人意見を持っているのを感じました。自分としては否定しがちですが、尊重することが大切だと思いました。

発達障がいや身体障がいのある子たちの権利を子ども目線で考えてほしいなと思いました。今回参加したのは「選挙ってなんで大人しかできないの」という息子の発言から、今この子の権利を守る方法は何があるんだろうと考えたことがきっかけで、実際に子どもたちが発言する姿をみて、そんな場があることを知られてよかったです。

「子どもの意見を聴く・話す」という仕組みがまだ十分に社会に浸透していないと思われるが、こうした機会を通して、充実されることを期待したい。

子ども・若者の発表をフォーラムの中に入れたのはよかったですと思います。子どもも大人も権利について勉強すると同時に子どもの生のこえを聴いていくことが大事だと思います。

市政やいろいろな場面で子ども・当事者の意見を取り入れ、一緒に変えていく機会が増えるように教育の現場も変わっていくといいですね。

子どもが話している場面では、会場に来ている人たちが興味深そうに真剣に聴いている様子が印象的でした。

来年以降も引き続きフォーラムを開いてほしい。

なるべく早く子どもの権利条例の制定と子どもの権利救済機関の設置をお願いします。子どもの意見発表は素直な意見で良かったです。

子ども自身色々な思いがある。それを聴き取る場・表明する場を作っていく事が大切だと感じました。

今回のフォーラムでの発表を聴いて、今度は大人たちがどういう風にそのことを受け止めて実現できるのかが、目に見えてわかる機会があったらいいと思いました。

他校の人と触れ合い、意見を交換する。とても良い機会だと思いました。

参加いただいた子どもたちだけでなく、親たちにとっても大変有意義な活動だと思います。

意見をしっかり発表できる子が多くて感心しました。他の学校の子と関わることができるこのような企画をこれからも発信してほしいと思います。

子どもが前に出て発表できる場が見られてよかったです。

来場者アンケート用紙

## 浜松市こどもの権利フォーラム 来場者アンケート

本日は「浜松市こどもの権利フォーラム」にご来場いただきありがとうございます。  
今後の市の施策の参考にさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。

Q1. あなたの年齢を教えてください。(1つを選択)

1. 10歳代以下	2. 20歳代	3. 30歳代
4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60歳代以上

Q2. あなたの住んでいる場所を教えてください。(1つを選択)

1. 中央区	2. 浜名区
3. 天竜区	4. その他 ( )

Q3. 今回のフォーラムに参加した目的として当てはまるものをすべて教えてください。  
(当てはまるものすべてに○)

1. 基調講演	2. こども・若者による発表
3. こどもの権利に関するパネルディスカッション	4. イベントブース

Q4. 今回のフォーラムについての評価をご記入ください。(○はそれぞれひとつ)

	満足	満足や	不満や	不満
基調講演	1	2	3	4
こども・若者による発表	1	2	3	4
こどもの権利に関するパネルディスカッション	1	2	3	4
イベントブース	1	2	3	4
フォーラム全体	1	2	3	4

Q5. 今日のフォーラムや、浜松市におけるこどもの権利推進について、ご意見・ご感想や今後取り組んでほしいテーマ等があればご自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。アンケートは受付にて回収いたします。

# 09 当日の様子



当日の受付係♪



こどもの権利  
ワークショップの  
意見を掲示しました



司会も子どもたち！



小学生の発表の様子



こどもの権利カルタ



基調講演の中で  
こどもの権利カルタを  
しました

令和7年度 浜松市こどもの権利フォーラム 開催報告書

編集・発行 浜松市こどもの権利フォーラム事務局